

自由の意味 と ルールの伝え方

モンテッソーリ教育の中で「敏感期」や「環境を整えること」等は、比較的に知られていると思いますが、それと同じくらい「自由と規律」について、とても重要に考えています。それは、どういった考え方なのか？ まず、「自由と規律」の自由とは何かをお話していきましょう。

モンテッソーリ教育でいう『自由』というのは、とても誤解されがちですが、『放任ではない』ことが一番のポイントです。『自由』というのは、規律がないと成り立たないもので、きちんとルールを守っていないと『自由』は得られません。自由と規律というのは、コインの裏表のようにセットになっています。それに対して『放任』というのは、『何でも好き勝手に』『何をやってもどうやってもいいよ』という、規律がなく、勝手気ままな状態です。

しかし、一般的には、この『自由』と『放任』の異なる2つの根拠念が混同されがちです!!

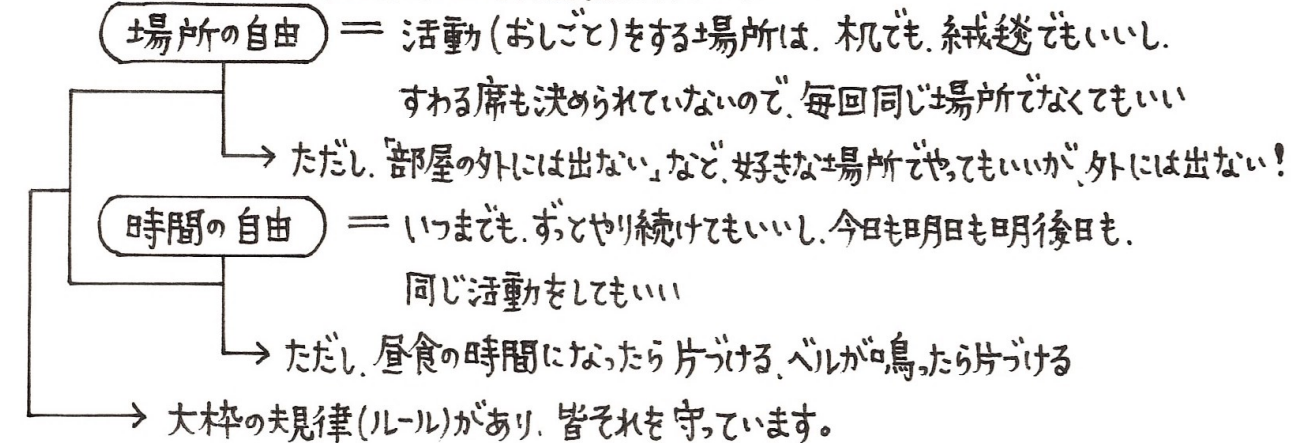
モンテッソーリ教育の『自由』とは『不自由の反対』の『自由』

しかも、規律を伴った 本当の意味での『自由』なのです。▲

「???」と思われましたか？ 分かりやすい例でいうと「交通ルール」です。自由にどこでも車で行き来したければ、全員が交通ルールを守らなければなりません。もし赤信号で、とんどん行ってしまう人はかりなら、青信号で進めるはずの人も待たなければならず、渋滞や事故だらけになります。皆が交通ルールを守っているから安心して自由に行き来できる。それが「自由と規律」の一番わかりやすい例だと思えます。クラス・教室の中でも... 教具は1つしかありません。同じものがしたい!! と思っても、同時に使うことはできないので、どうしてもしたい!! のであれば「その子が終わるまで、待たなければならぬ」という明確なルールがあります。

どの活動でも、そうです。待つのは嫌でしょうが、「今やっている子の邪魔をしたり、横取りしたりしないで、静かに待つ」という、そのルールを守ると、自分の番が回ってきた時にも、誰かに邪魔されたりしないのです。

モンテッソーリのクラスを人が見た時に「皆が好き勝手にやっている。それなのに、なぜか静かですね」「おちついてますね、失序があるね」と言われるのは、そういうことです。皆、それぞれが自由に好きな事をやっているのですが、実は、沢山のルールを守りながら、やっているのです。



「自由と規律」少しずつわかってきていただけたでしょうか？ 自由と規律は、セットになっている!! では、その規律(ルール)を伝える方法は、どうすればいいのか、次にお話していきます。

ルールは、口で言って聞かせるようなものではなくて、内的な『従順性』が育て初めて守れるようになりますが、それが出来あがってくるのは、大体、4、5歳の時期になります。1、2歳のまだルールという事も、はっきりわからない時期に「これは、こうじゃないよ、違うよ」と言い続けてもあまり効果がありません。勿論、良い事と悪い事を、口で伝えるのは良いです。ただ、その子が実際にできるかどうかは別です。まだ内側の従順性が育てていないために、いずれにせよ、できないことが多いです。では、内的な従順性が育ててきて、本当にルールを守れるようになり、良い or 悪い事を、はっきりとわかるようになっていくためには、どうしたらいいのでしょうか？ モンテッソーリ教育では、「言って聞かせる」というよりは、「外の環境をちゃんと失序だったものにする」ということを大切にしています。

それは、「いつも同じ場所にある」とか「ちゃんと戻す場所が決まっている」というような、『外的失序』をしっかりと周りの大人が作ってあげたり、やってみせてあげたりすることです。環境内の『外的失序』をしっかりと整えてあげることによって、今度は、子どもの内側から湧き出てくるような『内的失序』が育つことになるのです。内的な従順性は『内的秩序』といってもいいでしょう。その内的秩序が育てると自ら「ルールを守りたいな」という『従順性』となります。

では、従順性ができあがってくる4、5歳より前に、『自由と規律』という根拠念を伝えるのは、無理なのでしょうか？ 無理ではありませんが、0～3歳の段階では、『自由と規律』の基礎となるものを、しっかり育ておく方が大切です!!

「0～3歳の基礎づくりとは？」… 次回、ご紹介致します♪